

昭和58年度

# 日本優秀デザイン

## 商品開発指導事業実施報告書

---

北海道

---

青森県

岩手県

秋田県

宮城県

山形県

山形市

---

栃木県

神奈川県

---

滋賀県

和歌山県

---

広島県

鳥取県

---

香川県

愛媛県

---

大分県

佐賀県

鹿児島県

沖縄県

(財)日本産業デザイン振興会 優事業委員会事務局

〒105 東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル別館4階

TEL 03-431-0714 / 435-5633・5634

# 昭和58年度日本優秀デザイン商品開発指導事業地方庁別実施概要

● 地方庁	● 単位	● 指導対象業種・品目	● 専門指導員	● 指導日
北海道	4	木製家具(小樽市)	佐戸川清	58. 11/8~11/9
		パッケージデザイン(札幌市)	藤田実	59. 1/19~1/20
		小木工品(留辺蘂町)	外山修久	59. 2/15~2/16
		木製家具(帯広市)	川上信二	59. 3/12~3/13
青森県	3	小木工品、竹製品	宇佐波徳美・小畑広永	59. 1/26~1/27
		パッケージデザイン	藤田実	59. 3/14~3/15
岩手県	1	民工芸品、食料品	吉川博教	59. 2/2~2/3
秋田県	2	樺細工、木工芸品	三浦勇・荒井昌一	59. 1/26~1/27
宮城県	2	石材加工品	知久篤	58. 10/4~10/5
		パッケージデザイン	八尾武郎	58. 11/24~11/25
山形県	1	打刃物(剪定鋏)	羽生道雄	59. 1/12~1/13
山形市	1	打刃物(剪定鋏)	羽生道雄	59. 2/20~2/21
栃木県	1	パッケージデザイン(特産品)	藤田実	58. 11/24~11~25
神奈川県	1	小木工品	斎藤坦	58. 11/24~11/25
滋賀県	1	信楽焼(食卓用品)	大城戸建雄	59. 3/26~3/27
和歌山県	2	パッケージデザイン(水産加工品、野菜つけ物)	八尾武郎	58. 11/29~12/1
広島県	1	家具、はきもの、繊維製品、デザイン業等	目羅正彦	59. 3/13
鳥取県	1	木製家具	外山修久	59. 3/22~3/23
香川県	1	皮革製品製造業(かばん、袋物)	吉田茂	59. 3/29~3/30
愛媛県	1	縫製品	阿部コオイチ	59. 2/24~2/25
大分県	1	パッケージデザイン(食品関係)	藤田実	59. 2/24
佐賀県	1	陶磁器	松本佐一	58. 12/5~12/6
		パッケージデザイン	藤田実	59. 3/29~3/30
鹿児島県	2	地場産品全般	御手洗照子	59. 3/29~3/30
		パッケージデザイン(地場産品)	藤田実	59. 3/21
沖縄県	1	パッケージデザイン(地場産品)	藤田実	59. 3/21

# 北海道

## ■北海道商工観光部工業課

060 札幌市中央区北3条西6丁目  
TEL.(011)231-4111

## 現地指導員■

菅又淳悦 北海道立工業試験場工芸部長  
060 札幌市北区北19条西11丁目  
TEL. (011) 742-2211

## 現状■

### ①木製家具(小樽市)

小樽地区の木製家具製造業は、事業所数23、出荷額約40億円で、旭川地区、札幌地区に次ぐ産地を形成しているが、出荷先の約70%は道内であり、道外需要の開拓が今後の課題となっており、このため特色あるデザイン開発が必要である。

### ②パッケージデザイン(札幌市)

本道の観光土産品製造業は、総じて零細中小企業が多く、パッケージデザイン、商品ネーミング等に対する関心が薄く、特色あるデザインがみられない。

### ③小木工品(留辺蘂町)

本道的小木工品製造業の多くは、家内工業的に生産されており、今後は観光客の嗜好の多様化に対応した商品開発力をつけていくことが課題となっている。

### ④木製家具(帯広市)

帯広地区の木製家具製造業は、事業所数6、出荷額約14億円で、主要製品は特注家具であり、既製品の製造は不況の影響などにより減少を続け、現在、専門メーカーは2社のみとなっている。

このため、大半が建具との兼業であり経営規模の弱少な企業が多く、デザイン開発力の育成が課題となっている。

## 実施概要■

### ①木製家具(小樽市)

第1日 「今、小樽家具に期待するもの」をテーマにスライドをまじえ、講演が行われた。

第2日 木工団地のショールームにおいて多企業が集まり、展示されている製品について実施指導を受けた。

### ②パッケージデザイン(札幌市)

第1日 土産品パッケージのデザインについて、スライドをまじえて講演が行われた。

第2日 希望する企業8社が、製品を持ち寄って個別面談指導を受けた。

### ③小木工品(留辺蘂町)

第1日 小木工品のデザインについて現状と展望の講演が行われた。

第2日 希望する企業4社が製品を持ち寄って個別面談指導を受けた。

### ④木製家具(帯広市)

第1日 「木製家具類のデザイン開発」をテーマに、スライドをまじえ家具の需要動向、企業のデザイン戦略の方策等について講演が行われた。

第2日 組合員の中から代表的な企業2社を選定し、個別巡回指導が行われた。

## 指導日■

### ①木製家具(小樽市)

昭和58年11月8日～9日

### ②パッケージデザイン(札幌市)

昭和59年1月19日～20日

### ③小木工品(留辺蘂町)

昭和59年2月15日～16日

### ④木製家具(帯広市)

昭和59年3月12日～13日

## 指導場所■

### ①木製家具(小樽市)

小樽市

### ②パッケージデザイン(札幌市)

札幌市

### ③小木工品(留辺蘂町)

留辺蘂町

### ④木製家具(帯広市)

帯広市

## 専門指導員■

### ①木製家具(小樽市)

佐戸川清 ㈱ゼロファースト・デザイングループ代表取締役

### ②パッケージデザイン(札幌市)

藤田実 ㈱YAOデザイン研究所  
チーフデザイナー

### ③小木工品(留辺蘂町)

外山修久 ㈱西武百貨店 商品部インテリア部家具担当

### ④木製家具(帯広市)

川上信二 川上信二・玲子デザイン研究室主宰

## 指導対象業種・品目■

### ①木製家具(小樽市)

木製家具

### ②パッケージデザイン(札幌市)

土産品

### ③小木工品(留辺蘂町)

小木工品

### ④木製家具(帯広市)

木製家具

## 指導対象組合・企業■

### ①木製家具(小樽市)

小樽木材工芸団地協同組合

### ②パッケージデザイン(札幌市)

(社)北海道観光土産品協会

### ③小木工品(留辺蘂町)

(社)北海道観光土産品協会

### ④木製家具(帯広市)

十勝家具建具産業協同組合

# 青森県

## ■青森県商工労働部観光課

030 青森市長島1-1-1  
TEL.(0177)22-1111

## 現地指導員■

金澤昭夫 青森県木工指導所意匠課長  
030-01 青森市ハツ役字芦谷202-4  
TEL. (0177) 39-8555  
九戸真樹 青森県工業試験場漆工課技師  
036 弘前市袋町80  
TEL. (0172) 32-1466

## 現状■

本年度は、従来から継続指導を行なっているブナコ漆器、ヒバ曲物を中心に、あけびづる細工、りんご樹皮細工製品等を加え、デザイン改善等について個別指導した。

また、パッケージデザインについては県と(社)県物産協会の共催で開催された県推奨観光土産品審査会及び県観光土産品新商品開発コンクールの会場にて、各製品の指導を行なったほか、昭和59年度の重点事業である県風味コーナー新設への出品予定商品のパッケージデザインの向上指導を行った。

## 実施概要■

### ①小木工品・竹製品

専門指導員による現場での個別指導の実施。

### ②パッケージデザイン

- (1) 専門指導員による講演会の開催。
- (2) 専門指導員による業者毎の商品に対する個別指導の実施。

#### 指導日■

- ① 小木工品・竹製品  
昭和59年1月26日～27日
- ② パッケージデザイン  
昭和59年3月14日～15日

#### 指導場所■

- ① 小木工品・竹製品  
青森市、弘前市、金木町
- ② パッケージデザイン  
青森市

#### 専門指導員■

- ① 小木工品・竹製品  
宇佐波徳美 (有)ウサナミデザイン研究所  
代表取締役  
小畑広永 (有)H I L O デザイン研究所  
代表取締役
- ② パッケージデザイン  
藤田 実 (株)Y A O デザイン研究所  
チーフデザイナー

#### 指導対象業種・品目■

- ① 小木工品・竹製品  
ブナコ漆器、ヒバ曲物、りんご樹皮細工、あけびつる細工、その他民芸品
- ② パッケージデザイン  
パッケージ一般

#### 指導対象組合・企業■

- ① 小木工品・竹製品  
丹場曲物工芸社  
ブナコ漆器製造(株)  
津軽塗団地(協)  
中弘クラフト  
林寿工芸社 ほか
- ② パッケージデザイン  
県内製造販売業者

# 岩手県

■ 岩手県商工労働部商政課  
020 盛岡市内丸10-1  
TEL.(0196)51-3111

#### 現地指導員■

高橋勇介 岩手県工業試験場主任専門研究員

湯口靖彦 岩手県工業試験場専門研究員  
町田俊一 岩手県工業試験場技師  
020 岩手県紫波郡都南村津志田26  
TEL. (0196) 36-3640

#### 現状■

東北新幹線等広域交通網が整備されたことや、経済の国際化など、産業をとりまく環境が大きく変化したことに伴い、消費者のニーズが多様化、高度化している。それに対応する各業界では新製品開発パッケージの改良などの研究、工夫を行っているが、今後とも適切なアドバイス、指導が必要である。

これに対し県では、市場調査による情報収集や、製品、企画力等の整備強化が必要であると考え、各種事業を行っている。

#### 実施概要■

県内生産者、市町村、商工団体の担当者を対象に地場産品改善商品化セミナー、デザイン開発講習会を開催した。セミナーのテーマは「地方産業におけるデザイン開発の重要性」、「和歌山県海南地区におけるデザイン開発の実例」。

また、地場産品（現物）への直接アドバイスとして、参加した生産者からデザイン等の問題点を提起してもらい、それに対して講師が応答する形で指導を行った。2日目は宮古地区特産品開発セミナーとして、宮古地区の特産品を対象に、商品改善指導を実施した。

#### 指導日■

昭和59年2月2日（盛岡）  
昭和59年2月3日（宮古）

#### 指導場所■

岩手県民会館4階2・3会議室  
宮古市役所6階ホール

#### 専門指導員■

吉川博教 (株)ワイエスデザイン  
代表取締役

#### 指導対象業種・品目■

民芸品（盛岡）  
工芸品、食料品（宮古）

#### 指導対象組合・企業■

県内12企業及び宮古地区関連業界

# 秋田県

#### ■ 秋田県商工労働部商工課

010 秋田市山王4-1-1  
TEL.(0188)60-1683

#### 現地指導員■

石山昌孝 秋田県工業技術センター主任  
専門研究員  
010-16 秋田市新屋町字砂奴寄4-1  
TEL. (0188) 62-3414

#### 現状■

##### ① 角館町 (樺細工)

全国で唯一本県のみにもみられる伝統工芸である。樺細工製品の出荷額は、昭和40年以降急速な伸びを示し、角館町の工業出荷額の約40%、同従業者数の28%を占め、地元の産業・経済にとっても重要な地位を占めるに至っている。しかし、今後ともこれまでのようにハイテンポの発展が続くとは考えられず、製品のデザインの改善・他の木工品・漆器の文様づけに樺を利用する等の研究・開発が課題となっている。

##### (木工芸品)

角館町においては、樺細工が極めて重要な地位を占め、木工芸品の生産額は低い。最近における木材産業不況を背景に製材業を営む者等が当該分野に参入している例が少なくない。

そのため、デザイン、製品の開発、流通等に関する総合的な指導が急務の課題となっている。

##### ② 稲川町

##### (川連漆器)

素朴で堅牢、廉価な実用漆器として知られ、昭和51年2月国の伝統的工芸品として指定されている。県内漆器産業において川連漆器産業はその出荷額の95%を占め、順調な伸びを示してきたが、最近では需要減退傾向がみられる。川連漆器は、他の産地と比較して全国的に極めて知名度が低いこと、これが川連漆器だと区別できるような特徴がないこと等により、市場・販路の開拓・拡大に限界があり、新製品・新技術開発等について業界をあげて検討、研究が行われている。

#### 実施概要■

① 角館町  
開発指導

参加企業を対象に、製品のデザインの改善等についての問題点を提起してもらい、これに対して専門指導員が具体的に応答する形で指導を行った。

また、マーチャングデザイナーの立場から現代の消費者の嗜好等の市場情報を踏まえた販路、価格、新製品の開発の方向等について指導を行った。

## ②稲川町

### (1) 基本指導

川連クラフト協会及び川連クラフトデザイン協会の会員を対象に

ア) 現代クラフトの多様化とその視点

イ) マーチャングデザイン

の講演、質疑応答を行った。

(参加者 約30人)

### (2) 開発指導

参加企業を対象にデザインの改善等について個別指導を行うとともに、流通等についても具体的なアドバイスを行った。

## 指導日■

### ①角館町

昭和59年1月26日

### ②稲川町

昭和59年1月27日

## 指導場所■

### ①角館町

仙北郡角館町  
(各企業)

### ②稲川町

雄勝郡稲川町

(秋田県漆器工業協同組合会館及び企業)

## 専門指導員■

三浦 勇 三浦セラミッククラフト工房  
主宰

荒井昌一 松屋商事㈱クラフト担当部長

## 指導対象業種・品目■

### ①角館町

樺細工、木工芸品

### ②稲川町

川連漆器

## 指導対象組合・企業■

### ①角館町

㈱藤木伝四郎商店(樺細工)

㈱黒沢製材所(木工芸品)

### ②稲川町

川連クラフト協会

川連クラフトデザイン協会

㈱富貴工業

# 宮城県

## ■宮城県商工労働部商工振興課

980 仙台市本町3-8-1

TEL.(0222)63-2111

## 現地指導員■

佐藤明 宮城県工業技術センター

982 仙台市長町8-7-20

TEL.(0222)48-4386

## 現状■

### ①石材加工品

硯産地として600年の伝統をもち、かつ国内産硯原石の9割を産出しながら産地の知名度が著しく低い。硯原石(玄昌石)の他目的利用法としては産地内では建築資材の技術しか保持しておらず、すでに他地域で、置物、コースターその他観光みやげ品の製作技術を開発し、商品化している。当産地としても、硯原石の多目的利用を図るため、硯以外の商品開発を進めたい。

### ②パッケージデザイン

本県では仙台市を中心に古くから数多くの銘菓が誕生した。戦後、洋菓子の進出が目ざましく、和菓子は押され気味にあるが、消費者ニーズに合わせた新商品開発も盛んで、個々の商品のパッケージデザインもそれなりの工夫がなされている。しかしながら、パッケージデザインを包材業者や印刷業者に委ねることが多く、内身と包材、使用色数等のアンバランス、C I性の欠如等改善指導すべき点が多い。

## 実施概要■

### ①石材加工品

◦商品開発のノウハウを広島県佐伯地区の小木工品のデザイン開発実例を通して説明。(第1日目の講習会)

◦その後で、硯原石の他目的利用法について、専門指導員を産地組合、町、県で囲んで話し合った。

### ②パッケージデザイン

◦第1日目(講習会)…パッケージデザインの開発について、佐賀県小城ようかんの開発実例を通して説明。その後、パッケージデザインの基礎知識について講演。

◦第2日目(企業巡回個別指導)…和菓子主力企業2件巡回…現在の主力商品

(ようかん、もなか)の20年後の消費動向を踏まえた商品展開の必要性について講演。

## 指導日■

### ①石材加工品

昭和58年10月4日～5日

### ②パッケージデザイン

昭和58年11月24日～25日

## 指導場所■

### ①石材加工品

雄勝町物産センター

### ②パッケージデザイン

仙台市

## 専門指導員■

### ①石材加工品

知久篤 インダストリアルデザイナー

### ②パッケージデザイン

八尾武郎 ㈱YAOデザイン研究所  
代表取締役

## 指導対象業種・品目■

### ①石材加工品

石材加工業(硯原石である玄昌石を使った別用途の商品開発がテーマ)

### ②パッケージデザイン

菓子業界

## 指導対象組合・企業■

### ①石材加工品

雄勝硯生産販売組合

### ②パッケージデザイン

宮城県菓子工業組合

㈱白松がモナカ本舗

寿の三色最中本舗

# 山形県

## ■山形県商工労働開発部経営指導課

990 山形市松波2-8-1

TEL.(0236)30-2364~2370

## 現地指導員■

武井呉郎 山形県工業技術センター研究員

羽生田光雄 山形県工業技術センター研究員

藤田寿夫 山形県工業技術センター専門研究員

990 山形市沼木字車の前683

TEL.(0236)44-3222

## 現状■

山形打刃物は、600年の伝統をもち、農業を中心とした鎌、鍬のほか剪定鋏、庖丁等を生産している。生産比率は剪定鋏が全体の60%を占め、販売先は県内、県外が半々で、その60%が問屋経由である。

これまで、伝統的鍛造技術を特徴としてきた産地企業では、近年社会情勢の変化に伴って販売量が限定されてきていることから、今後は生産分野の転換、さらには事業拡大をめざして、生産体制の近代化、商品開発基盤の強化、販売市場開拓が急務とされている。

## 実施概要■（山形市と協力して実施）

### 集団基本開発指導

（剪定鋏庖丁関係 5社、8名）

(1) 流通市場の現状分析と企業における商品開発課題を提示。特に園芸用品関連市場の拡大に伴う対応策を検討。

(2) スライドにより、海外の優秀デザイン商品を紹介。

### 個別企業指導

（剪定鋏 2社、5名）

(1) 既存商品について、商品イメージ向上に必要なデザイン改善指導を行った。

(2) 企業における経営方針を含む商品開発のあり方について指導を行った。

## 指導日■

昭和59年1月12日～13日

（昭和59年2月20日～21日）

## 指導場所■

山形県工業技術センター及び各企業所

## 専門指導員■

羽生道雄 モノプロ工芸協代表取締役

## 指導対象業種・品目■

打刃物、剪定鋏

## 指導対象組合・企業■

飛塚製鋏所

山川製鋏所

# 山形市

## ■山形市産業部商工課

990 山形市旅籠町2-3-25

TEL.(0236)41-1212

## 現地指導員■

藤田寿夫 山形県工業技術センター専門  
研究員

武井呉郎 山形県工業技術センター研究  
員

羽生田光雄 山形県工業技術センター研  
究員

990 山形市沼木字車の前683

TEL.(0236)44-3222

## 現状■

600年の伝統をもつ山形打刃物は、鋤、鍬に始まり時代の変遷に対応しながら現在は、庖丁、剪定鋏、刈込鋏など約6億円の生産額になっている。山形打刃物の特徴は鍛造による手づくり生産からくる職人指向にある。そのため、一般消費者へのシェア拡大を図り、全国レベルで販売できる商品づくりが大きな課題となってきた。

## 実施概要■（山形県と協力して実施）

### 開発指導

組合員企業2社を対象に、現在の生産形態についての考察と既存製品の商品性について指導。又、製品の改善による新商品の開発指導。

## 指導日■

（昭和59年1月12日～13日）

昭和59年2月20日～21日

## 指導場所■

指導対象企業事業所

山形県工業技術センター

## 専門指導員■

羽生道雄 モノプロ工芸協代表取締役

## 指導対象業種・品目■

打刃物

剪定鋏

## 指導対象組合・企業■

山形打刃物工業協同組合

(1) 山川製鋏所

(2) 飛塚製鋏所

# 栃木県

## ■栃木県商工労働部中小企業課

320 宇都宮市埜田1-1-20

TEL.(0286)23-3164～3166

## 現状■

パッケージ及び包装紙は、個々の企業独自のもの、または、市販されているものが使われているが、特に好評を博しているものは少ない。また、独自のものを使用する場合でも、専門家の指導を受けるケースはきわめて少ない。

## 実施概要■

デザイン開発の事例をスライドにより紹介し、デザイン開発にあたっての基本的な着眼点（①ロゴタイプに工夫をこらす。②統一性と差別をうまく表わす。③地域の特性を生かす。）について講義した。

出席者が現に使用している包装紙、パッケージについて個別的にアドバイスを受けた。

## 指導日■

昭和58年11月24日～25日

## 指導場所■

藤原町藤原

ホテルニューさくら

## 専門指導員■

藤田 実 ㈱YAOデザイン研究所

チーフデザイナー

## 指導対象業種・品目■

特産品の包装紙及びパッケージ

## 指導対象組合・企業■

栃木県物産振興協会

# 神奈川県

## ■神奈川県工芸指導所

250 小田原市本町1-7-53

TEL.(0465)22-4168

## 現地指導員■

永松千幸 神奈川県工芸指導所工芸意匠  
科長

渡辺大晃 神奈川県工芸指導所技師

250 小田原市本町1-7-53

TEL.(0465)22-4168

## 現状■

管内産業、特に小田原地方の小木製品は食卓用品、玩具、小箱類、室内用品等

多彩な技術と多品種が特徴であり、総生産額は約144億円である。

輸出については、アメリカ、ヨーロッパを対象として室内用品、パズル、ファンシー用品、玩具を出荷している。輸出額は約4億円で、前年対比66%と後退しており、この抜本的対策が望まれている。

### 実施概要■

時計・オルゴール等について指導

・市場へ製品を送り出す企業の責任等について

・企業イメージを高めるグレードの高い製品開発の必要性等について

木象嵌の製品について指導

・洋風のインテリアに合う額を考えること

・家具への利用を考えること

ファンシー文具類について指導

・アイテム数を拡大すること

・仕上りと部止まりを考えること

・ディスプレイを考えること

・経営戦略としてのブランドアイデンティティを考えること

室内用品、ゲーム類について指導

・価格をもう少しおさえること

・販売チャネルの再考

・ノベルティとしての可能性を考えること

・コーポレート・アイデンティティを考えること

観光土産品、ファンシー室内用品等について指導

・現在何の問題点もないが、将来への計画の準備が必要で、開発部門の人材育成、グレードの高い製品開発手段について指導

寄木製品について指導

・現代的なデザインが必要

・販売チャネルの開発を考えること

### 指導日■

昭和58年11月24日～25日

### 指導場所■

参加各企業

### 専門指導員■

斎藤坦 (株)パーズ・アイ  
代表取締役

### 指導対象業種・品目■

室内用品類(時計、オルゴール)、木象嵌額(木画)、ファンシー文具(マグネット、押ピン、クリップ等)、ゲーム類、

室内用品(ゲーム、パズル、ハンガー)ファンシー商品(メモボード、ルームアクセサリー)、寄木商品(盛器、皿、箱類)

### 指導対象組合・企業■

(社)箱根物産連合会傘下組合員

東亜協

(株)小林安之助商店

神奈川玩具協

(株)ワダガング

ミコー産業協

(株)本間木工所

## 滋賀県

### ■滋賀県立信楽窯業試験場

529-18 滋賀県甲賀郡信楽町長野498

TEL.(07488)2-1155

### 現地指導員■

今西康博 滋賀県立信楽窯業試験場係長

河井宏司 滋賀県立信楽窯業試験場主査

福村 哲 滋賀県立信楽窯業試験場技師

529-18 滋賀県甲賀郡信楽町長野 498

TEL. (07488) 2-1155

### 現状■

信楽焼は昔京都の粟田焼と交流が深く、その技術を生かして食器を生産し、有名な山水土瓶も信楽の主力商品であった。しかし、現在はその技術が低下し、生産額も産地の12%に過ぎない状況になっている。それ故、その技術を向上させ独自の地歩を確立して、その伝統を受継いで行きたい。

食器の商品開発、流通開発を通して技術向上を進めたい。

### 実施概要■

1 組合、6企業を個別訪問して指導したが、その概要は、信楽が観光地化して随分地元売りがふえ、地元と消費地に市場が二局分化しているが、食器の場合、地元売りへの依存度が高くなっている。そこに問題があるように思える。商品作りにおいて地元売りをしながら、一般市場にも売って行こうとする姿勢が障害となっている。現に巡回している中で企業主は、「地元は民芸調、外部には新しいデザイン」が売れると語っているが、そうとわかっていながら、商品企画におい

て二局分化していない。そして総体的に云えるのは、価格が高いこと。安く作る努力が必要である。又、中に優れたクラフトものを作る企業もあるのだが、それらの企業が量産体制をとろうとしないので家内生産で、半分作家としての作りをしているのは、信楽の食器業界にとってはマイナスである。

### 指導日■

昭和59年3月26日～27日

### 指導場所■

各企業個別訪問

### 専門指導員■

大城戸建雄 (株)大丸 営業本部デザイン室  
技術係長

### 指導対象業種・品目■

信楽焼(食卓用品)

### 指導対象組合・企業■

信楽陶器卸商業協同組合

中郷陶房

かねふさ製陶所

(株)しんにょ

小西立二

丸十製陶所

(株)壺八

## 和歌山県

### ■和歌山県経済部産地振興課

640 和歌山市小松原通り1-1

TEL.(0734)32-4111

### 現地指導員■

小川幸夫 和歌山県工業試験場木材工業  
部長

649-64 和歌山市小倉60

TEL. (0734) 77-1271

### 現状■

#### ①水産加工品(なんば焼)

紀南地方練製品の製造業は26社で田辺市を中心に産地形成している。製品はかまぼこ、ちくわ、揚かまぼこ、ごぼう巻きでカマボコ類については約80%の企業が製造を行っており、特にエソ、グチ等の生鮮魚を原材料とした南ばん焼かまぼこが当産地の代表的製品で、一般むしかま

ばことは一味違った風味を持っている。販売地域は県内80%以上の企業18社と多く県内でも田辺市を中心とする紀南地方が大部分である。販売先は店頭販売42%一般小売店23%、土産品店6%等と周辺地域での観光客、一般消費者向け販売を対象とする企業が多い。

## ②野菜つけ物(梅干)

田辺市、南部町及び南部川村を中心とする本県の梅の収穫量は全国の約23%に当たる15,000トンで全国第1位の産地である。当産地には地元梅の利用により発展した梅干製造業者(50社)が集中しているが、昭和46年頃から輸入梅(台湾)の利用が増加し、最近の利用割合は地元梅40%に対し輸入梅60%になっている。梅干の出荷額は全国の70%に当たる130億円と推定される。

最近の動向は一時かつお梅のヒット商品で活況を呈したものの食生活の変化に伴う嗜好変化、消費支出動向の低迷、他漬物類の台頭等により需要の伸び悩み、更に作柄による梅価格の変動、製品価格の値上げ困難、人件費、諸経費の上昇等により一層厳しくなっている。

## 実施概要

(1) 基本指導(出席者、①水産加工品7名、②野菜つけ物20名)

テーマ:パッケージデザイン

地方産業デザイン開発推進事業で取り上げられた九州の一地方におけるパッケージデザイン開発のプロセスを例にあげ市場特性の把握、デザイン資源の認識、企業の明確な意志などが明らかにされることによって、はじめてパッケージデザインの具体的な展開が可能になることが説明された。

また、地域の現状と問題点についてふれ、画一的な観光土産文化が表面でも反映しているなど地域差のないこと、包材に対する情報、資材の入手に難があることなどが指摘された。最後にパッケージデザインは製品開発計画の重要な一部門であって消費者ニーズを的確に見きわめ、それに応じて適切なデザインを答として見つけ出すことがあると結論された。

(2) 開発指導(①水産加工品5企業、②野菜つけ物5企業)

④ パッケージデザインにおけるアイデンティティの必要性

⑤ 食品におけるパッケージの色彩について

⑥ 包材のテクスチャー(マチュール)

以上の3点を中心に各企業個別の指導、助言が行われた。

## 指導日

### ①水産加工品(なんば焼)

昭和58年11月29日~30日

### ②野菜つけ物(梅干)

昭和58年11月30日~12月1日

## 指導場所

### ①水産加工品

田辺商工会議所(基本指導) 参加企業(開発指導)

### ②野菜つけ物(梅干)

南部町商工会(基本指導) 参加企業(開発指導)

## 専門指導員

八尾武郎 ㈱Y A Oデザイン研究所  
代表取締役

## 指導対象業種・品目

### ①水産加工品(なんば焼)

### ②野菜つけ物(梅干)

## 指導対象組合・企業

### ①水産加工品

田辺南蛮焼協同組合  
店喜蒲鉾店  
マルサ蒲鉾店  
㈱たな梅本店  
旬店千代本舗  
旬栗照商店

### ②野菜つけ物

紀州梅干漬物協同組合  
紀州本場南部梅干漬物協同組合  
中田食品㈱  
㈱梅屋  
南紀梅干㈱  
河本食品㈱  
ウメタ㈱

# 広島県

## ■広島県商工労働部商工振興課

730 広島市中区基町10-52

TEL.(082)228-2111

## 現地指導員

大藤恭一 広島県立工芸試験場デザイン部研究員

729-01 福山市柳津町2252-18

TEL.(08485)2-4161

## 現状

家具製造業は、当県西部(広島市周辺)、東部(府中市、福山市周辺)に地場産地を形成しており、広島県の主要な地場産業となっている。佐伯地区には、宮島、甘日市地区に小木工品の産地があり広島県佐伯地区デザイン振興協会を組織している。福山市、府中市周辺には家具、はきもの、繊維製品、服飾、金属製品等の業種が産地を形成しており、これらにデザイン業が加わって、福山地方産業デザイン振興協会を組織している。

いずれの業種も、開発型企業への脱皮が最大の関心事であり、特にデザイン開発に対する関心は高い。しかし、経営的視点にたつてのデザイン開発のとらえ方やデザイン・マネジメントに関する理解はまだ非常に希薄である。この点が今後の指導課題であると思われる。

## 実施概要

・テーマ:「イクシーズ」のマーケティング戦略

・講演要旨:

1. プロジェクト・コンセプト

(1) ターゲット設定とその市場特性

(2) ライフスタイル提案とマーチャングダイジング・クラシフィケーション

(3) パラファナリア・ショッピング・スポット

(4) 商品企画ポリシー

・Authentic, Hi-Tech, Contemporary

・Basics & News

2. マーケティング・ツール

(1) Product Planning

(2) Place

(3) Promotion

(4) Price

(5) Product Mix

(6) Personal Selling Force

3. イクシーズ・アソシエーションにおける協業化

今後の方向:

昭和57年度、昭和58年度の成果をふまえて、来年度以降も、企業経営とのかかわりの中でのデザイン・マネジメント、マーケティングといった方法論を、現場の第一線で活動されている方を講師にむかえて、話を聞く場を持ちたいと考えている。

企業戦略、経営戦略というものと、デザイン・マネジメント、マーケティング・マネジメントというもののむすびつきを、「商品経営」というキーワードでと

らえて、地場産業におけるデザイン振興を考えていきたいと思っている。

#### 指導日■

昭和59年3月13日

#### 指導場所■

福山商工会議所 301会議室

#### 専門指導員■

目羅正彦 ㈱ダーバン企画部マーケティング室室長

#### 指導対象業種・品目■

家具、はきもの、繊維製品、デザイン業その他

#### 指導対象組合・企業■

府中家具工業協同組合員、福山地方産業デザイン振興協会等、(87人)

## 鳥取県

#### ■鳥取県商工労働部通商観光課

680 鳥取市東町1-220

TEL.(0857)26-7221

#### 現地指導員■

西尾茂 鳥取県工業試験場木材工業科長

藤本章 鳥取県工業試験場産業工芸科長

680 鳥取市秋里390

TEL.(0857)22-8321

#### 現状■

地場産業である木製家具は、婚礼タンス及び食器棚などの箱物家具と、食堂セット及び応接セットなどの脚物家具があり、組合加入企業数30社、年生産額75億円(55年)で、そのうち婚礼タンスは11社、年生産額48億円である。

当県は全国的にも高湿度地域であり、特に出荷先が表日本の低湿度地域であるため主材料の木材の水管理には早くから力を入れ、狂いの少ない安定した商品として高い評価を受けている。

しかし、最近の消費者ニーズの多様化に対してデザイン面の遅れが見られ、活路開拓事業を実施する等、その対策に懸命の努力を続けている。

#### 実施概要■

最近の都会地における住生活の変化に伴う木製家具の多様化と消費ニーズに対

応した形状、寸法、デザインの現状と動向及び商品開発のあり方、並びに本県木製家具の問題点とその対策について講演方式で研修を行った。

市場動向から見た形状、寸法、デザインについて4企業の現地工場において個別指導を行った。

#### 指導日■

基本指導 昭和59年3月23日

開発指導 昭和59年3月22日～23日

#### 指導場所■

基本指導 鳥取県立社会教育センター  
小研究室

開発指導 ㈱本内家具、新木木工㈱  
㈱西山家具、㈱鳥取家具

#### 専門指導員■

外山修久 ㈱西武百貨店

商品部インテリア部家具担当

#### 指導対象業種・品目■

木製家具

#### 指導対象組合・企業■

鳥取県家具工業組合

## 香川県

#### ■香川県経済労働部企業振興課

760 高松市番町4-1-10

TEL.(0878)31-1111

#### 現地指導員■

郡谷文雄 香川県工業技術センター嘱託

761 高松市郷東町587-1

TEL.(0878)81-3175

#### 現状■

本県の手袋業界は、700近い関連企業と5,000名余の従業者で構成され、年間生産額は500億円を超え全国の90%以上を占める日本一の産地である。

しかしながら、手袋は防寒用が主力で季節商品的な性格が強く、安定的な需要の確保が困難であるため、最近では手袋製造のための原材料、技術等を応用して非季節的商品であり、安定的な販路が確保し易い「かばん」「袋物」を中心とした他分野への進出が図られており、当面

商品の高級化と付加価値を高めるためのデザイン開発が要請されているところである。

#### 実施概要■

専門指導員が個別に企業を巡回し、各企業のデザイン開発担当者との個々の製品に関する具体的なディスカッション(デザイン、形状、実用性等について)を通じて、新製品の試作研究のためのアドバイス、提案等を行った。

#### 指導日■

昭和59年3月29日

(2日間)

昭和59年3月30日

#### 指導場所■

主要産地(白鳥町及び大内町)

#### 専門指導員■

吉田茂 ㈱吉田オリジナル

代表取締役

#### 指導対象業種・品目■

皮革製品製造業(かばん・袋物)

#### 指導対象組合・企業■

日本手袋工業組合

(組合員企業) 木村産業㈱

㈱ウルシハラ

## 愛媛県

#### ■愛媛県商工労働部商工課

790 松山市一番町4-4-2

TEL.(0899)41-2111

#### 現地指導員■

水崎公一 愛媛県染織試験場主任研究員

799-15 今治市上徳字猪畑甲30番地

TEL.(0898)48-0021

#### 現状■

縫製品工業界は、従来よりの実用衣料を主とした生産態勢から、次第にファッション志向に対応した多品種少量生産への転換を余儀なくされつつある。

県内の縫製品工業界は、メーカーの受託生産を行う企業が多く、今後は、専門化した製品を取り扱うなど企業の特徴を強め、製品の高級化、新製品の開発など新しいファッションに対応できる企業体

質改善がせまられている。

### 実施概要■

開発指導（2月24日） 4企業を巡回し製造している製品に新しいファッションを如何に取り入れるか、又新しいファッションの動向、流行色への対応など個々に指導を行った。

基本指導（2月25日） スライドを利用してファッション動向についての講演会を開催した。（出席者、企業の代表者37名、デザイン担当10名、計47名）

### 指導日■

昭和59年2月24日～25日

### 指導場所■

今治市内の縫製企業4社  
今治国際ホテル会議室

### 専門指導員■

阿部コオイチ ㈱大丸営業本部デザイン室チーフディレクター

### 指導対象業種・品目■

縫製品

### 指導対象組合・企業■

愛媛県縫製品工業組合  
愛媛県輸出縫製品工業協同組合  
光陽㈱  
矢野正㈱  
オーダー㈱  
セルビエ㈱

## 大分県

### ■大分県商工労働部商工振興課

870 大分市大手町3-1-1  
TEL.(0975)36-1111

### 現地指導員■

河野公記 大分県立芸術短期大学講師  
波多野義孝 日本グラフィックデザイナー協会会員  
乙咩武征 ユタカデザインセンター代表  
笠木 元 大分県印刷工業組合代表理事  
楠 忍 九州グラフィックデザイン協会会員

### 現状■

大分県においては、昭和54年以來の

「一村一品運動」により、県下各地に多数の1.5次産品が生まれ、地域の活性化に寄与している。

こういった状況を維持し、かつ、さらに進展させていくためには、これら製品の流通促進が重要な課題となってきた。

### 実施概要■

流通促進を図る上で重要な要素の一つであるパッケージデザインについて「最近におけるパッケージデザインの傾向と今後の方向性について」というテーマで専門指導員より指導を受けるとともに、会場に多数の産品を陳列して、そのパッケージデザインについてアドバイスを受けた。

また、5名の現地指導員により、同会場において個別相談も受けた。

### 指導日■

昭和59年2月24日

### 指導場所■

大分県中小企業会館

### 専門指導員■

藤田 実 ㈱YAOデザイン研究所  
チーフデザイナー

### 指導対象業種・品目■

パッケージデザイン（食品関係）

### 指導対象組合・企業■

商工会、市町村等

## 佐賀県

### ■佐賀県商工労働部観光課

840 佐賀市城内1-1-59  
TEL.(0952)24-2111

### 現地指導員■

坂本義弘 佐賀県窯業試験場特別研究員  
844 佐賀県西松浦郡有田町中部字田の平乙3100-5  
TEL.(09554)3-2185

### 現状■

佐賀県の代表的地場産業である陶磁器業界を取り巻く経済情勢はやや上向き傾向にはあるが、産地においては注文の多

品種、少量化によるコスト高、企業間格差の拡大、他産地との競争の激化、国内での需要停滞等厳しいものがある。これを打破するためには既成の伝統を生かしつつもデザインの開発により需要動向に対応した商品の改善、新商品の開発を図る必要がある。

### 実施概要■

伝統を生かしつつも需要動向に対応した品質、デザインのすぐれたオリジナル商品を創り出すためのデザインの開発指導を実施した。

当日は各企業を個別に訪問し、企業の責任者、デザインの担当者等を交え、内外の市場動向について説明を行うとともに、実際に製品を見ながらそれぞれの製品について具体的なアドバイスをするなど個性的な指導が行われた。

また、今後のデザイナーとしてのあり方、企業のあり方等についても指導が行われた。

### 指導日■

昭和58年12月5日～12月6日

### 指導場所■

有田町、伊万里市

### 専門指導員■

松本佐一 松本陶芸代表

### 指導対象業種・品目■

陶磁器

### 指導対象組合・企業■

有田町 ㈱百田陶園  
(有)幸右エ門  
(有)天句谷窯  
伊万里市 鍋島瀬兵衛  
㈱魯山

## 鹿児島県

### ■鹿児島県水産商工部商工振興課

892 鹿児島市山下町14-50  
TEL.(0992)26-8111

### 現地指導員■

湯田沃 鹿児島県水産商工部  
商工振興課商業貿易係長  
892 鹿児島市山下町14-50  
TEL.(0992)26-8111  
(内線2852)

## 現状■

### ①パッケージデザイン

県産品の中には、製品そのものは質的にすぐれたものもあるが、カタログ・パンフレット等に問題のある商品も多く、カタログ等による広報、宣伝の効果が十分に上がっているとは言えない。また、パッケージデザインについても中央市場向け、海外向けに適したものが少ない。従ってデザインの効用についての認識を深め、魅力あるカタログ等を作成し、またパッケージデザインを改良していくことによって、需要の拡大を図るよう指導していく必要がある。

### ②地場産品

県内には、薩摩焼、大島紬、焼酎、屋久杉製品等伝統的な地場産品が多いが、これらの製品は概して価格競争力がなく生産性が低いものが多く、製造業界に新製品開発の意欲が充分あるとは言えない。従って、売れる製品を作っていくためには、情報の収集、市場動向の調査、消費者のニーズにあった製品の開発等が可能な体制として確立する必要がある。

## 実施概要■

### ①パッケージデザイン

パッケージデザインの必要性と効用及び現状、カタログの作り方等について講演会を開催した。また同会場で参加者が持参した商品のパッケージデザインカタログ等について指導、アドバイスを受けた。さらに企業個別巡回指導では、焼酎のパッケージデザイン等について担当者等に適切な助言、指導が行われた。

### ②地場産品

消費者ニーズの変化から最近の市場動向をさぐり、売れる製品とはどのようなものかについて講演会を開催した。

さらに企業個別巡回指導では、木製品の製品開発等について製造現場で指導がなされた。

## 指導日■

昭和59年3月29日～30日

## 指導場所■

鹿児島県水産会館及び事業所

## 専門指導員■

### ①パッケージデザイン

藤田 実 ㈱Y A Oデザイン研究所  
チーフデザイナー

## ②地場産品

御手洗照子 ㈱西武百貨店商品部イン  
テリア部商品開発担当

## 指導対象業種・品目■

製造業者全般

## 指導対象組合・企業■

県産品愛用運動推進協議会  
鹿児島県食品産業協議会  
鹿児島県貿易協会

# 沖縄県

## ■沖縄県商工労働部観光・文化局工芸産業課

900 那覇市泉崎2-3-2

TEL.(0988)66-2348

## 現地指導員■

平良昭隆 沖縄県工芸指導所主任研究員  
901-11 沖縄県南風原町字照屋213  
TEL.(0988)89-1186

## 現状■

本県には、染織物、陶器、漆器等、長い歴史に培われた数多くの伝統工芸品が生産されている。この間、高額商品であるにも拘わらず、商品価値に見合ったパッケージがなされておらず、その粗雑さが指摘されてきた。そのため、商品価値に見合ったパッケージのあり方、付加価値を高めるためのパッケージのあり方について、基本指導を行う。

## 実施概要■

地域特性を生かしたパッケージのあり方、及び販路拡大のために、どのようにパッケージを考えていくのかという点を他産地の事例を具体的に示しながら、指導が行われた。

## 指導日■

昭和59年3月21日

## 指導場所■

ゆうな荘及び事業所

## 専門指導員■

藤田 実 ㈱Y A Oデザイン研究所  
チーフデザイナー

## 指導対象業種・品目■

陶器、漆器、紅型、織物、ガラス等工芸品業界全種

## 指導対象組合・企業■

壺屋陶器事業協同組合  
沖縄県陶器事業協同組合  
琉球ガラス工芸協同組合  
那覇伝統織物事業協同組合  
琉球絆事業協同組合  
琉球漆器事業協同組合



# 昭和58年度日本優秀デザイン商品開発指導事業専門指導員

阿部コオイチ	(株)大丸営業本部デザイン室チーフディレクター 〒542 大阪府大阪市南区東清水町44 TEL (06) 251-7548	藤田 実	(株)Y A Oデザイン研究所チーフデザイナー 〒160 東京都新宿区本塩町9-3 司法書士会館 3 F TEL (03) 357-3668
荒井 昌一	松屋商事株式会社クラフト担当部長 〒104 東京都中央区明石町2-20 TEL (03) 542-6891	松本佐一	松本陶芸代表 〒921 石川県石川郡野々市町扇が丘4-24 TEL (0762) 48-5035
宇佐波徳美	(有)ウサナミデザイン研究所代表取締役 〒106 東京都港区六本木6-8-18 六本木文山ビル302 TEL (03) 403-7180	三浦 勇	三浦セラミッククラフト工房主宰 〒273 千葉県船橋市浜町2-1-1 よみうり文化センター京葉 TEL (0474) 34-6148
大城戸建雄	(株)大丸営業本部デザイン室技術係長 〒542 大阪府大阪市南区東清水町44 TEL (06) 251-7548	御手洗照子	(株)西武百貨店商品部インテリア部商品開発担当 〒170 東京都豊島区東池袋3-1-1 サンシャイン60 TEL (03) 989-0111 (内線3570)
小畑広永	(有)H I L O デザイン研究所代表取締役 〒150 東京都渋谷区宇田川町6-11 原宿パークマンション202 TEL (03) 464-0736	目羅正彦	(株)ダーバン企画部マーケティング室室長 〒153 東京都目黒区中目黒2-7-7 TEL (03) 710-7111
川上信二	川上信二・玲子デザイン研究室主宰 〒107 東京都港区赤坂9-6-28 アルベルゴ乃木坂1009 TEL (03) 403-2865	八尾武郎	(株)Y A O デザイン研究所代表取締役 〒160 東京都新宿区本塩町9-3 司法書士会館 3 F TEL (03) 357-3668
斎藤 坦	(株)バーズ・アイ代表取締役 〒150 東京都渋谷区南平台12-13 秀和南平台第2レジデンス TEL (03) 464-2742	吉川博教	(株)ワイエスデザイン代表取締役 〒542 大阪府大阪市南区谷町9-1-18 住生ビル 9 F TEL (06) 762-0573
佐戸川 清	(株)ゼロファーストデザイングループ代表取締役 〒107 東京都港区南青山5-10-5 第2菅谷ビル4-A TEL (03) 409-7651	吉田 茂	(株)吉田オリジナル代表取締役 〒332 埼玉県川口市芝3-2-3 TEL (0482) 68-1059
知久 篤	インダストリアルデザイナー 〒108 東京都港区白金1-3-24 TEL (03) 441-2755		
外山修久	(株)西武百貨店商品部インテリア部家具担当 〒170 東京都豊島区東池袋3-1-1 サンシャイン60 TEL (03) 989-0111 (内3568)		
羽生道雄	モノプロ工芸株式会社代表取締役 〒213 神奈川県川崎市宮前区菅生1873-3 TEL (044) 976-0551		(五十音順敬称略)

